

開講科目名 Course	アジア法研究 / Asian Law
時間割コード Course Code	14120
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	公法関係科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	

授業の概要

【授業の目標】

アジア各国の法について、その背景（歴史・文化等）を含めた基礎的な知識を習得するとともに、アジア各国の法と日本法を比較・検討し、日本法（その背景を含む。）の理解を更に深めることを目標とする。加えて、アジア各国の法を学ぶことを通じて、国際社会におけるグローバルな課題を多面的・多角的に分析・理解できる力を身につけ、法学を修めた者が国際社会においてどのような役割を果たせるのかを考える視座を得ることを目標とする。

知識・理解の領域

アジア各国の法について、発展のプロセスや背景事情（歴史・文化等）を含めて知識を得て、理解を深める。この過程において日本法との比較を行うことにより、日本法の理解を更に深める。

技能の領域

アジア各国の法に関する基礎的な知識を前提に、各国の社会・経済を支える基本的なルールがどのように機能し、利害関係者の利益を調整しているかについて、多角的に分析する技能を身につける。

態度・志向性の領域

アジア各国の法に関する知見を広めることを通じ、各国内の課題のみならず国際社会における課題の解決に向けたルールの意義・機能を実感し、国際社会における法的思考・法的バランス感覚を養う。

【授業の概要】

アジア各国の法は、それぞれの国の歴史や文化、政治や経済といったさまざまな要因により、非常にバラエティに富んでいる。その一方で、グローバル化が進む現代の国際社会における統一的な枠組みの影響も受けて変容しており、アジア各国の法は、各国固有の要素とグローバル化の要素が入り交じりながら発展を続けている。

この授業では、アジア各国の法の基本構造や特徴を踏まえながら、各国において法がどのように発展してきたのか、そのプロセスの中で社会における法の役割がどのように変化してきたのかといった点を検討するとともに、日本法との比較を行いながら各国の法の現状と課題について理解を深める。

【評価方法】

授業への参加状況及びレポート（1回）により評価を行う。授業への参加状況に50%、レポートに50%の比重を置く。

授業への参加状況の評価は、各回の授業における意見・コメント・質問の提示、討議への貢献の状況などによって行う。また、授業内試験の評価は、レポートが授業の内容を反映しているか、法学を学んでいる者が作成する文書として説得的であるかといった視点から行う。

【授業計画】

授業計画は必要に応じて変更することがある。

第1回 序論・アジア各国法の概観

アジア各国の法はどのような特徴を有しているのか、また、アジア各国の法を学ぶ意義は何かについて、アジア各国の歴史や文化、政治や経済を概観しつつ、全体の見取り図を示す。

第2回 アジア各国の法の発展と国際社会からの影響

アジア各国の法は、それぞれの国の歴史や文化、政治や経済といった各国固有の要素と深く結びついている一方、国際社会からの影響も大きく受けて発展している。各国の法の発展のプロセスにおけるさまざまな要素について検討する。

第3回 アジア各国の法の発展と日本による法整備支援

日本は法整備支援という形でアジア各国の法の発展に関与している。日本の支援の成果や課題を踏まえ、アジア法の特徴や日本へのフィードバックを検討する。

第4回 移行経済国における法の発展

アジアの移行経済国では近年どのような法の発展が見られるかについて、計画経済の下における法の役割と市場経済の下における法の役割の比較をしながら検討する。

第5回 各国の事例（中国）

中国における近年の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。

第6回 各国の事例（ベトナム）

ベトナムにおける近年の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。

第7回 紛争影響国における法の発展

紛争が終結した後の復興のプロセスにおいて、法がどのように整備され、役割を果たしていくかについて、平和構築に関する取組みと関連づけながら検討する。

第8回 各国の事例（カンボジア）

カンボジアにおける紛争終結後の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。

第9回 各国の事例（ネパール）

ネパールにおける紛争終結後の法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。

第10回 新興国における法の発展

新興国ではビジネス環境整備の一環として法の整備が進められている。法はビジネス環境整備においてどのような役割を果たすのか、急速に経済発展する各国の現状と課題を踏まえて検討する。

第11回 各国の事例（インドネシア）

インドネシアにおけるビジネスを取り巻く法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。

第12回 各国の事例（ミャンマー）

ミャンマーにおけるビジネスを取り巻く法の発展について、具体的な法令を例にしながら検討する。

	<p>る。</p> <p>第13回 ESG・SDGs・「ビジネスと人権に関する国連指導原則」とアジアにおける法の発展Ⅰ ESG・SDGsのメインストリーム化や「ビジネスと人権に関する国連指導原則」は、アジア各国の人権を取り巻く状況をどのように変容しているか、現状を検討する。</p> <p>第14回 ESG・SDGs・「ビジネスと人権に関する国連指導原則」とアジアにおける法の発展？ ESG・SDGsのメインストリーム化や「ビジネスと人権に関する国連指導原則」は、アジア各国の人権を取り巻く状況をどのように変容させていくか、その展望を検討する。</p> <p>第15回 レポート出題及びまとめ レポートの出題とまとめを行う。</p> <p>< 予習及び復習 > 予習として、授業で使用する資料や参考書の該当箇所等を読み、疑問点を明確にしておくこと。復習として、授業内容を振り返り、理解を深めること。予習及び復習にはそれぞれ授業時間と同程度の時間を要する。</p> <p>なお、予習復習の際に、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧める。</p>
評価方法	
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	
授業計画	
テキスト	テキストは指定しない。授業では配布するレジュメ・資料を使用する。
参考書	<p>鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）</p> <p>独立行政法人国際協力機構『世界を変える日本式「法づくり」：途上国とともに歩む法整備支援』（文藝春秋企画出版部、2018年）</p> <p>松尾弘『発展するアジアの政治・経済・法：法は政治・経済のために何ができるか』（日本評論社、2016年）</p> <p>その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	
フィードバックの方法	
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	
使用言語	
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	